

女性医師の活躍が 小児科医の未来を拓く

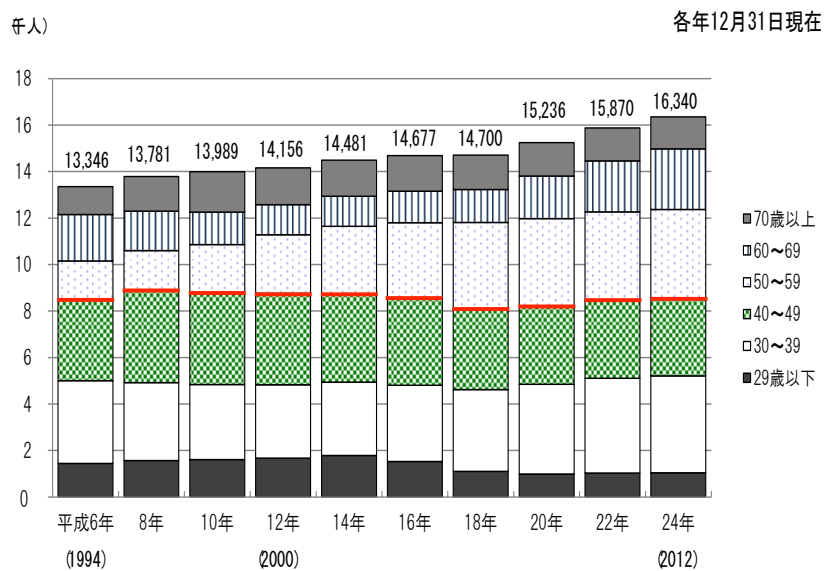
大阪府立母子保健総合医療センター
消化器・内分泌科
恵谷 ゆり

日本小児科学会 COI開示

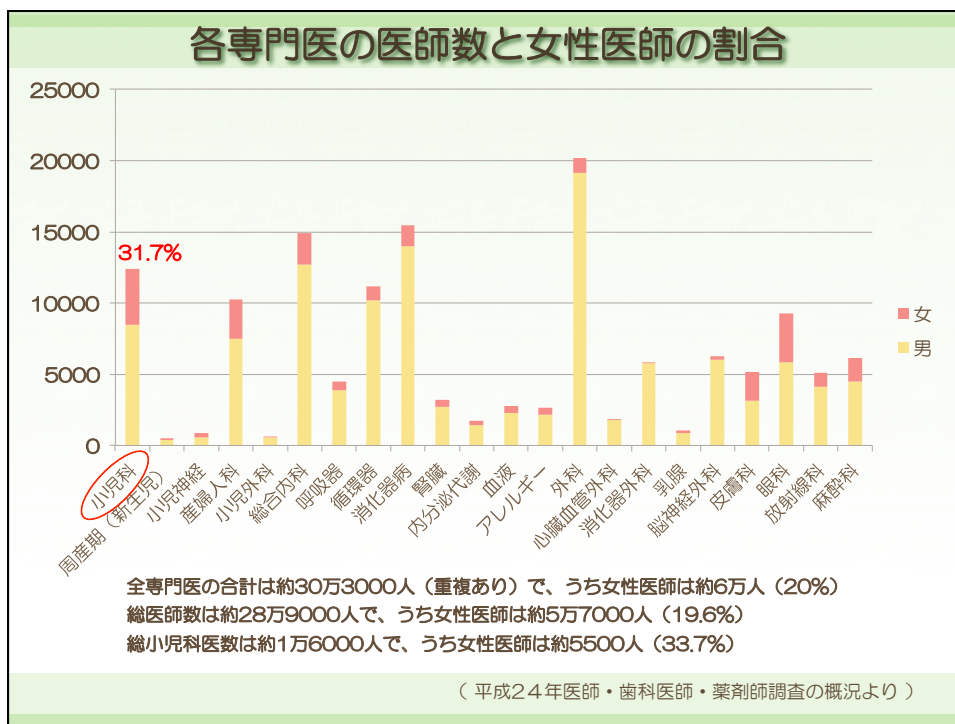
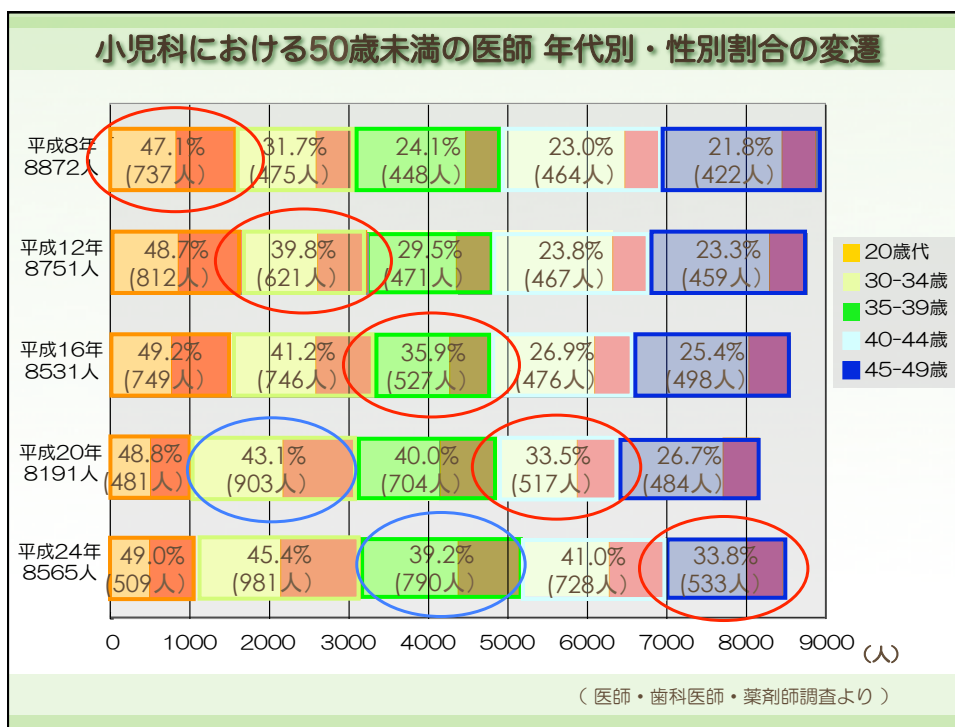
日本小児科学会の定める利益相反に
関する開示事項はありません

女性小児科医の現状

従事する主たる診療科が「小児科」の医師数の年次推移

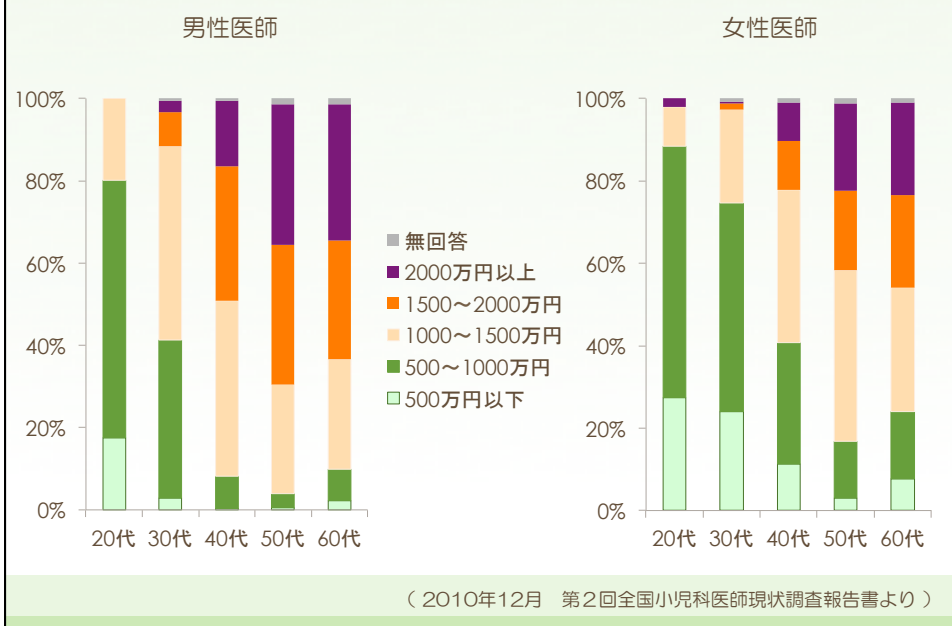


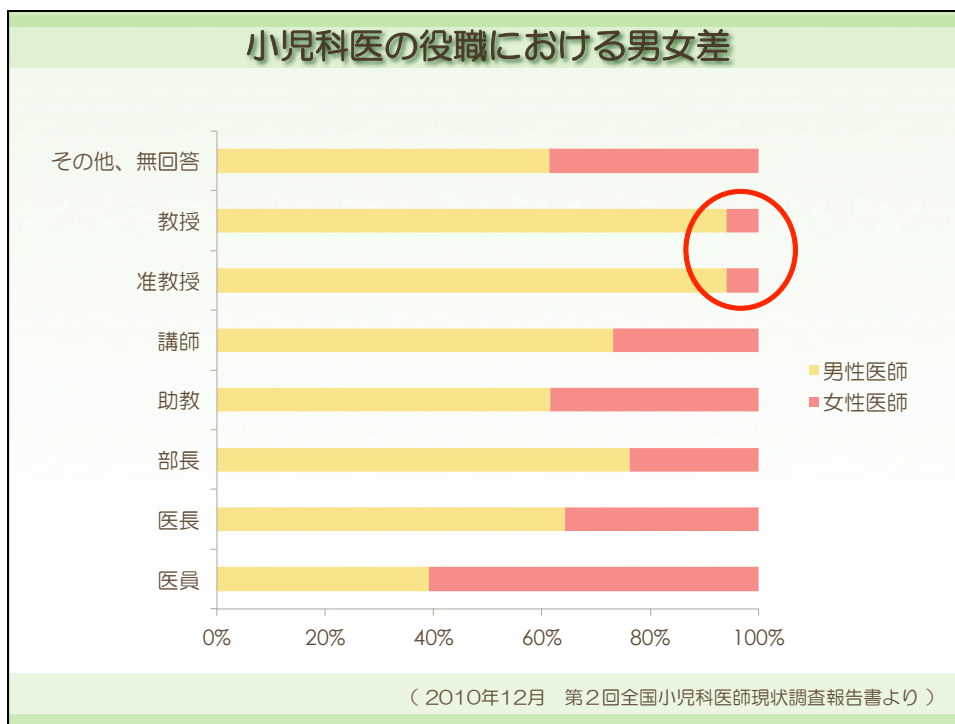
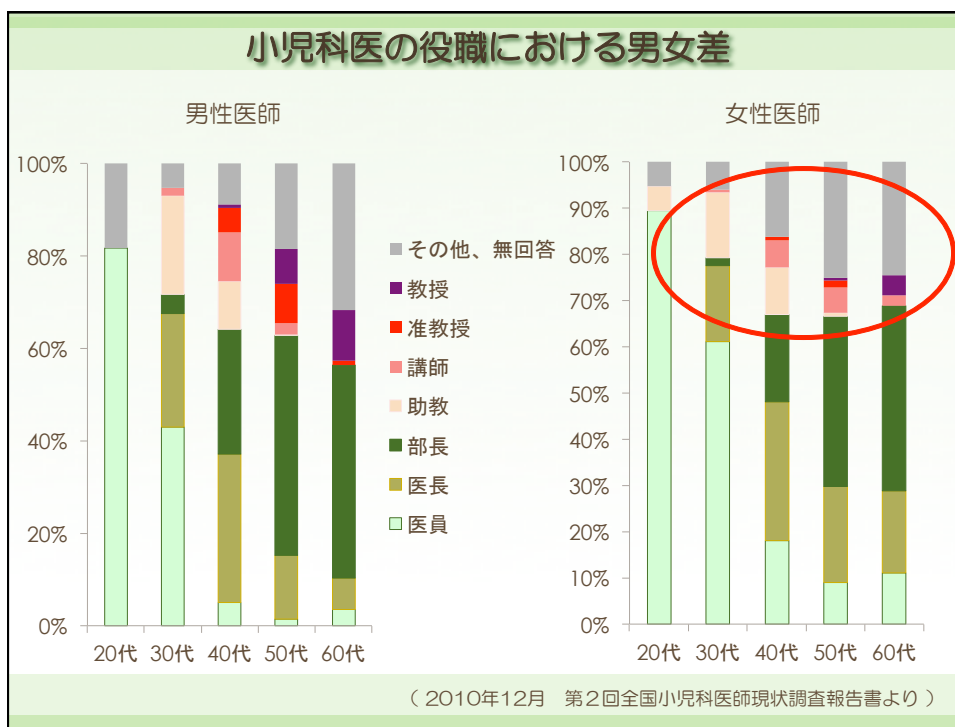
(平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況より)

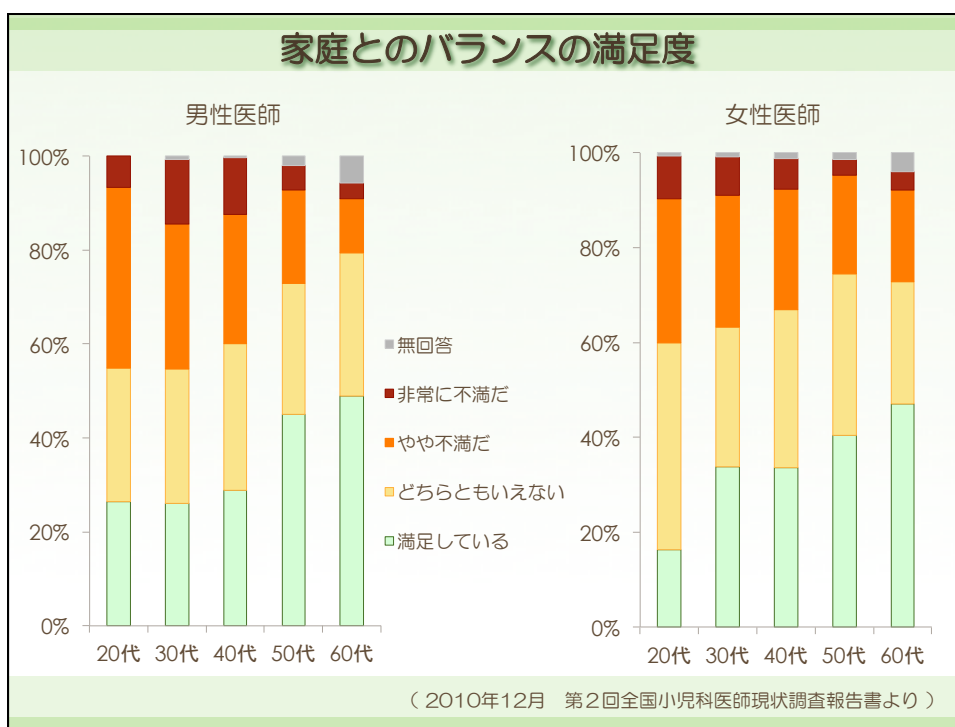
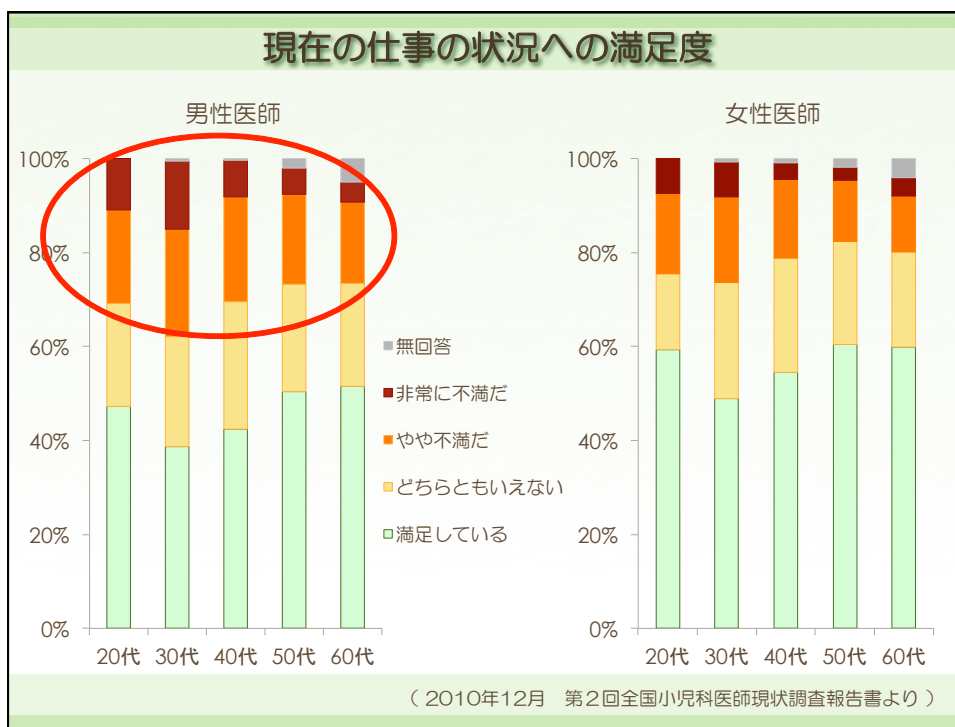


小児科医のキャリアにおける 男女差

小児科医の年収における男女差

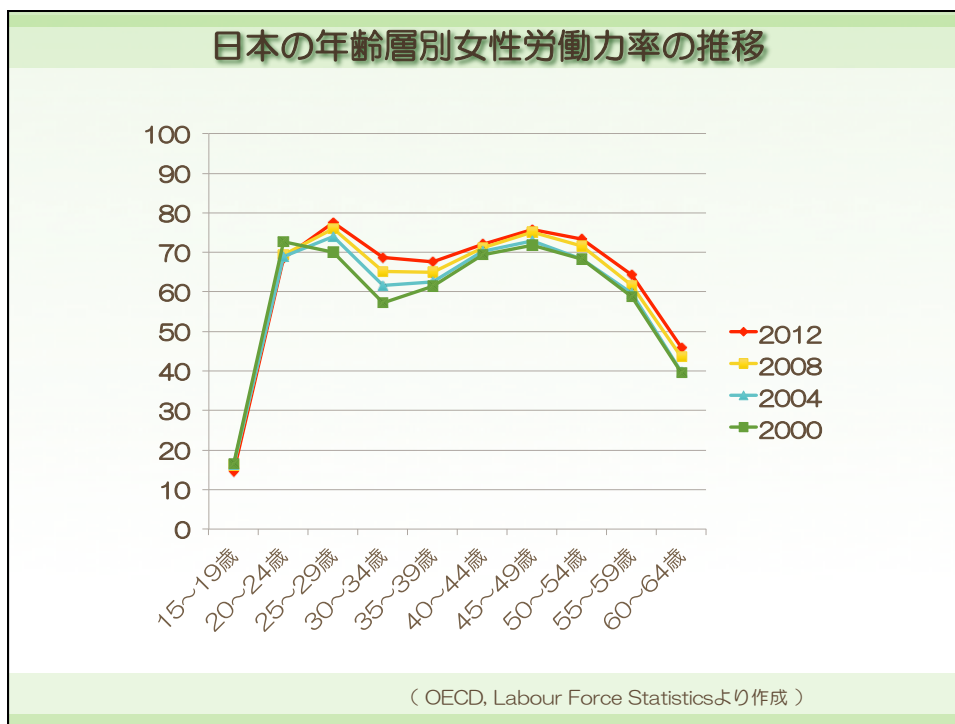
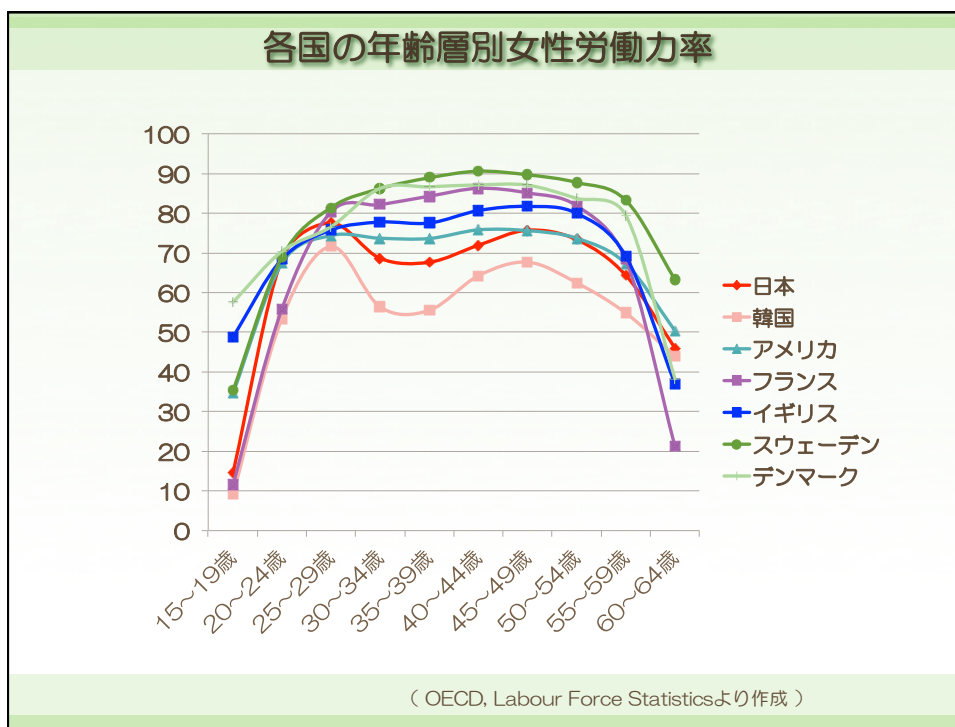


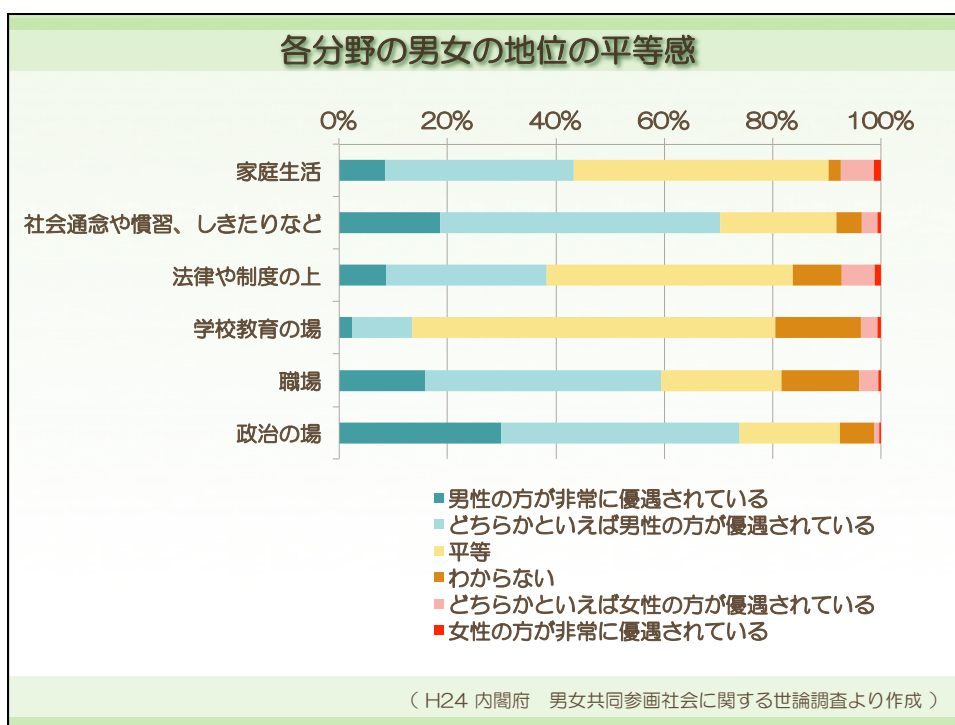
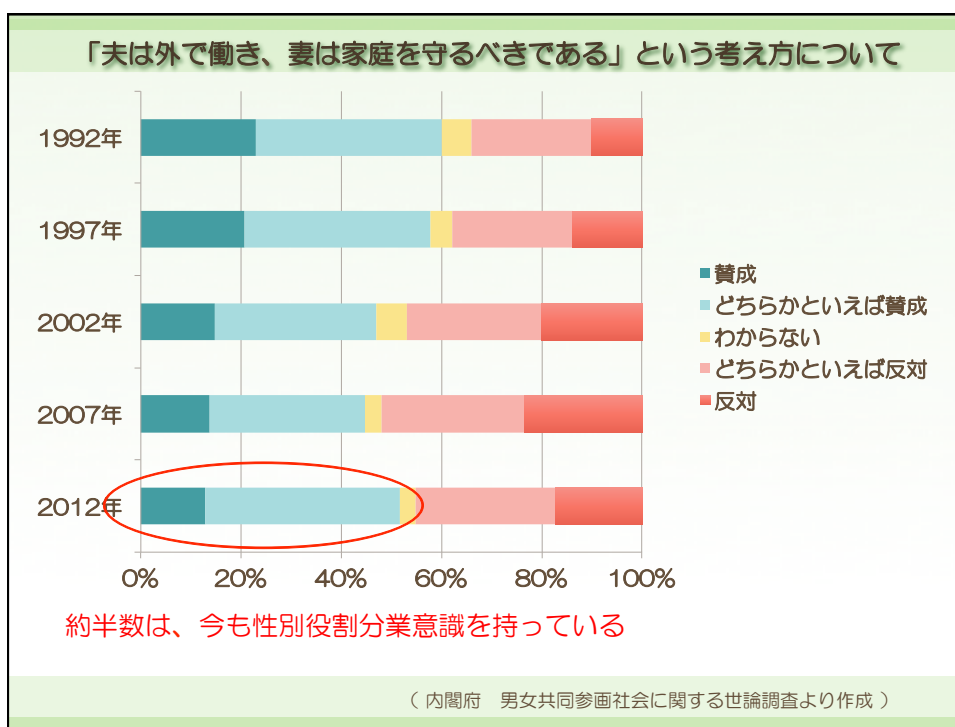


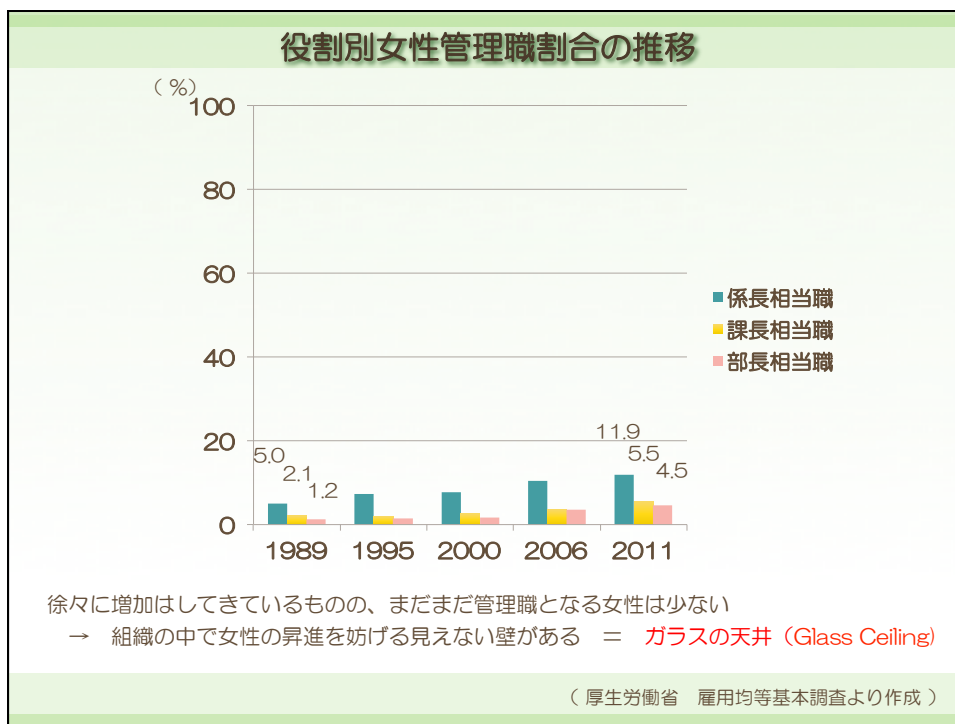
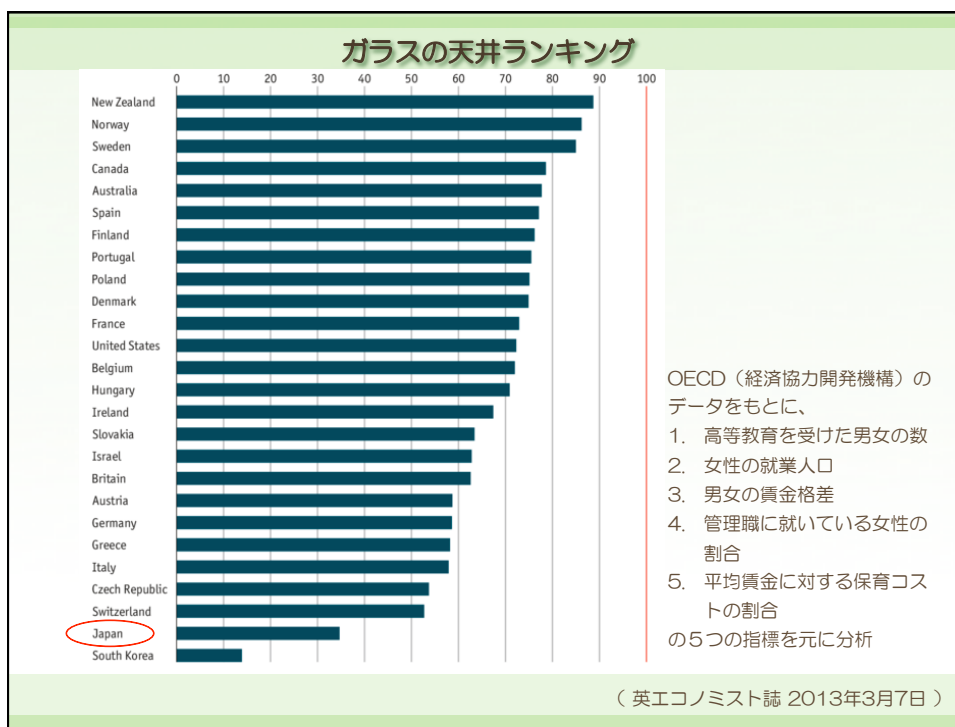


なぜ女性医師は
キャリアアップできないのか

日本社会における文化、
人々の意識の問題







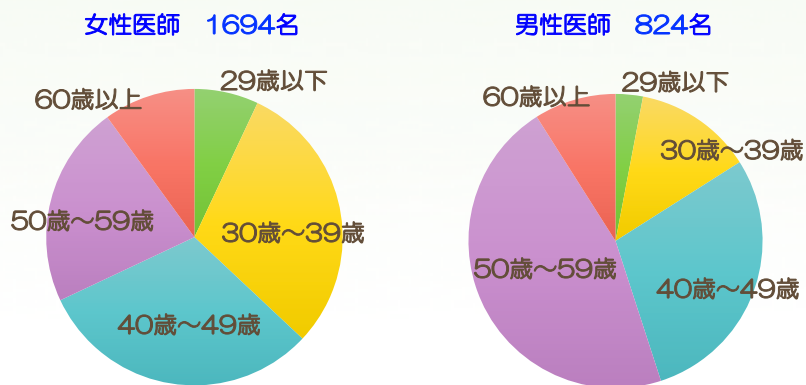
2020年までに指導的地位の女性割合を30%に

政府は「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標を平成15年に男女共同参画推進本部で決定。平成17年12月に策定した男女共同参画基本計画（第二次）に明記しポジティブ・アクション（積極的改善措置）として取り組みを進めている。

医療の場における文化、 人々の意識の問題

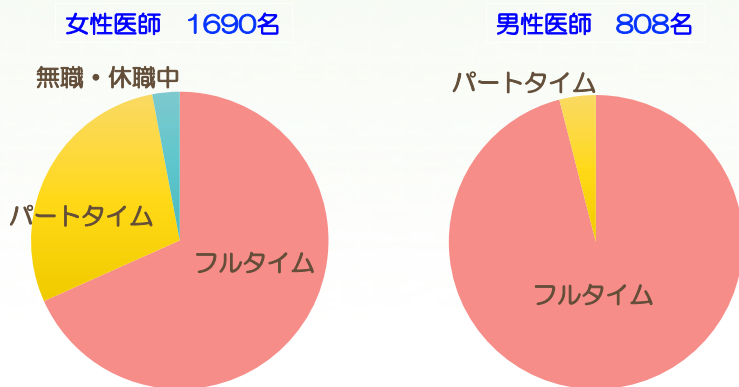
私立大学医学部同窓会合同調査 “女性医師の就労支援に関するアンケート”

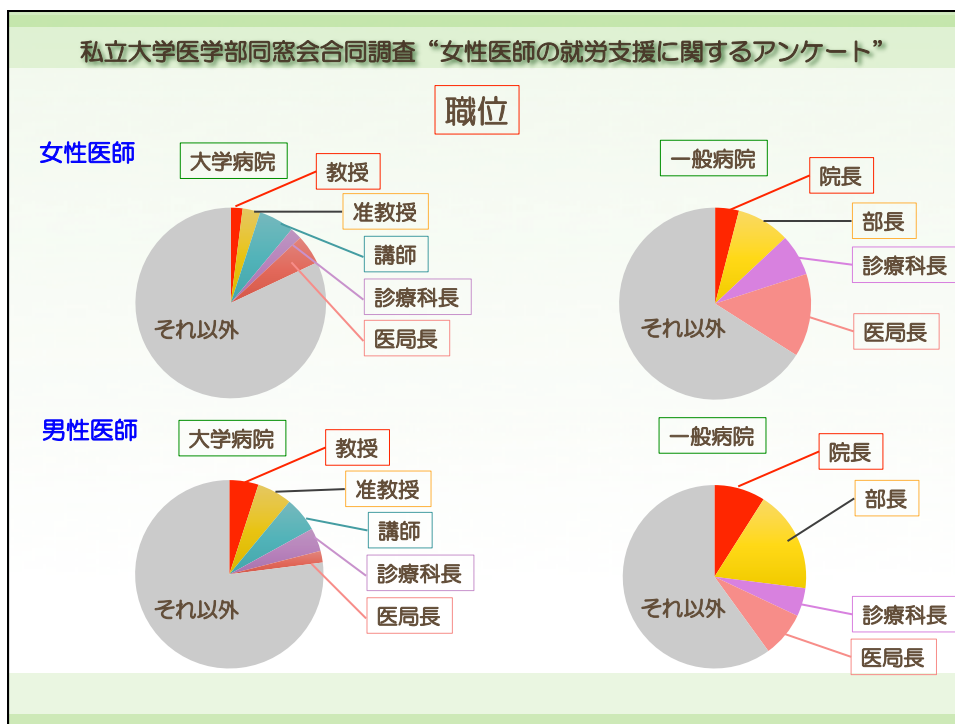
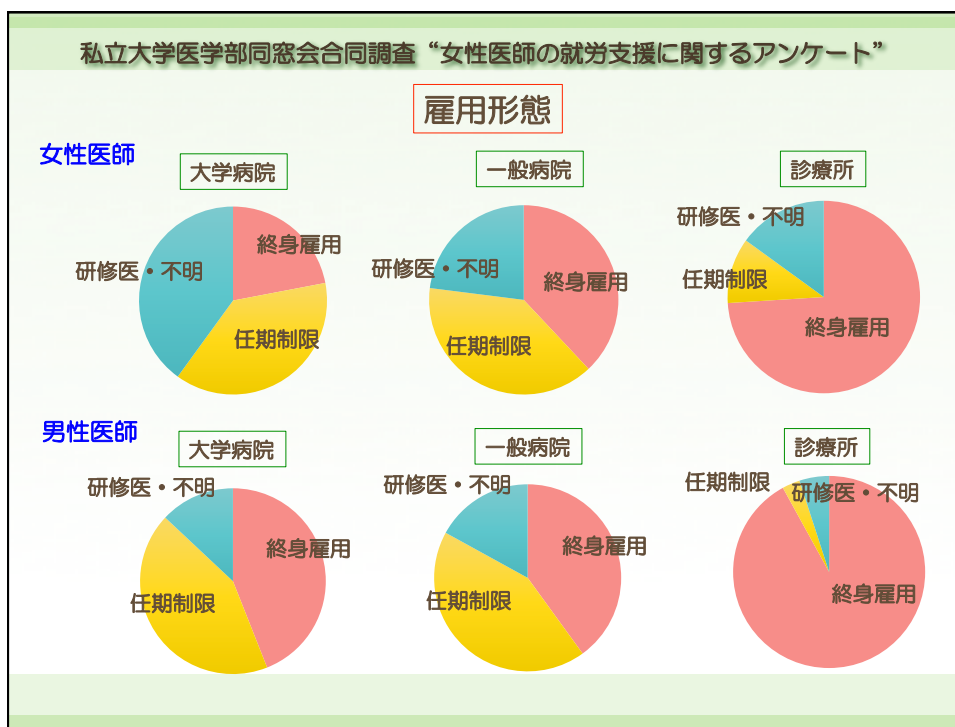
「医師不足時代の女性医師就労支援に向けた疫学研究」（帝京大学公衆衛生大学院准教授 野村恭子）として2009年～2011年にかけて私立医科大学13校の卒業生対象に行われた



私立大学医学部同窓会合同調査 “女性医師の就労支援に関するアンケート”

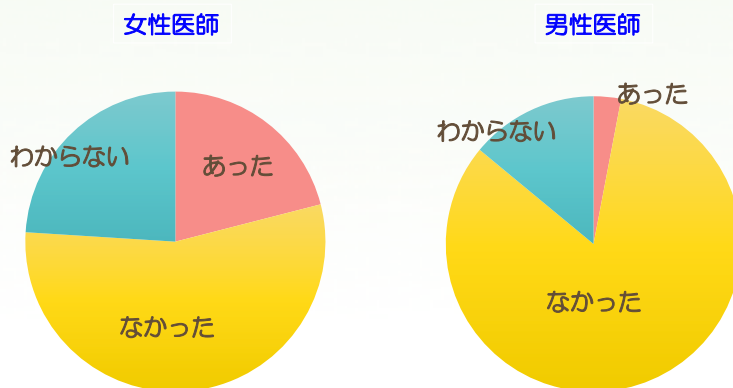
就労状態





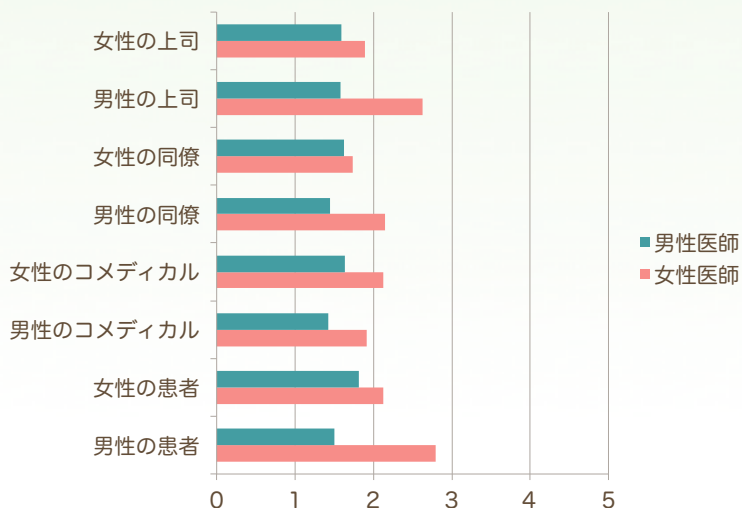
私立大学医学部同窓会合同調査 “女性医師の就労支援に関するアンケート”

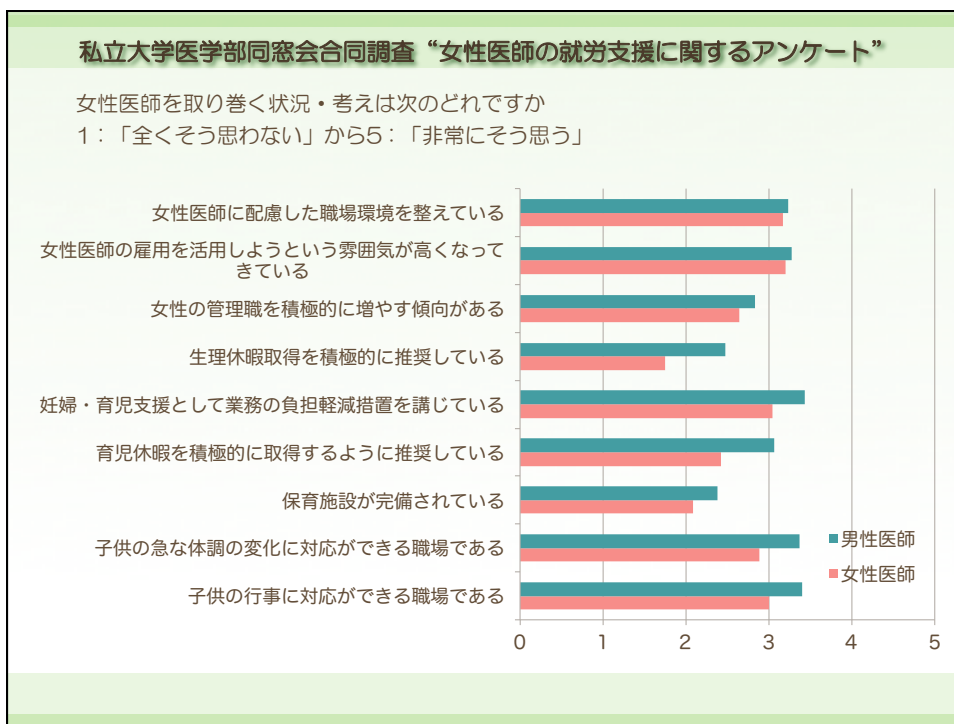
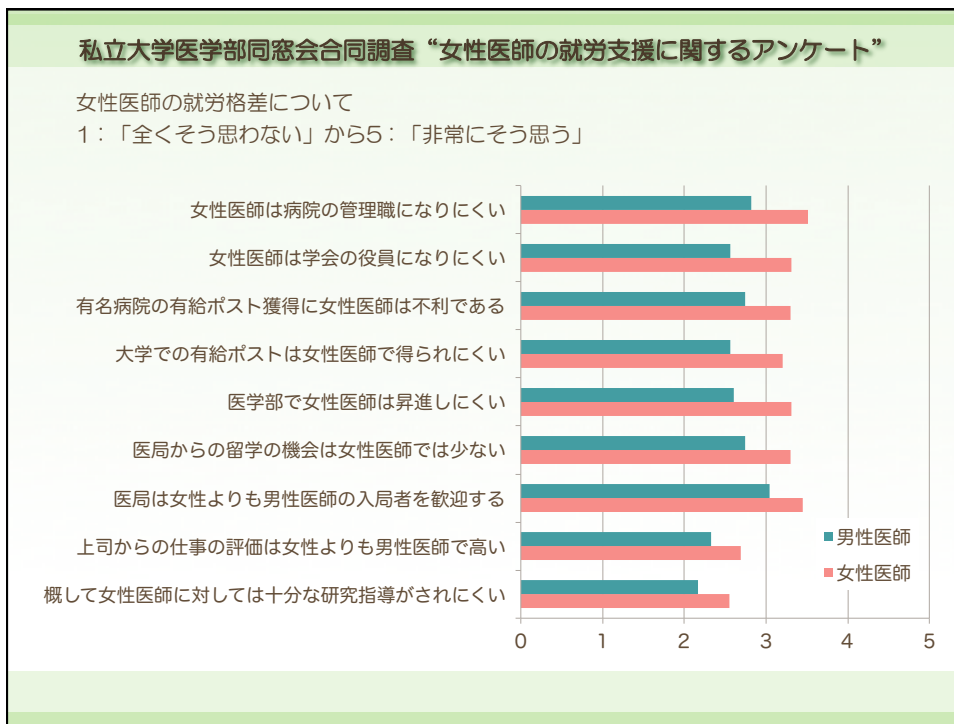
これまでに性別のために有給ポスト獲得・昇進人事・終身雇用の機会を得られなかったと感じる経験はありましたか？

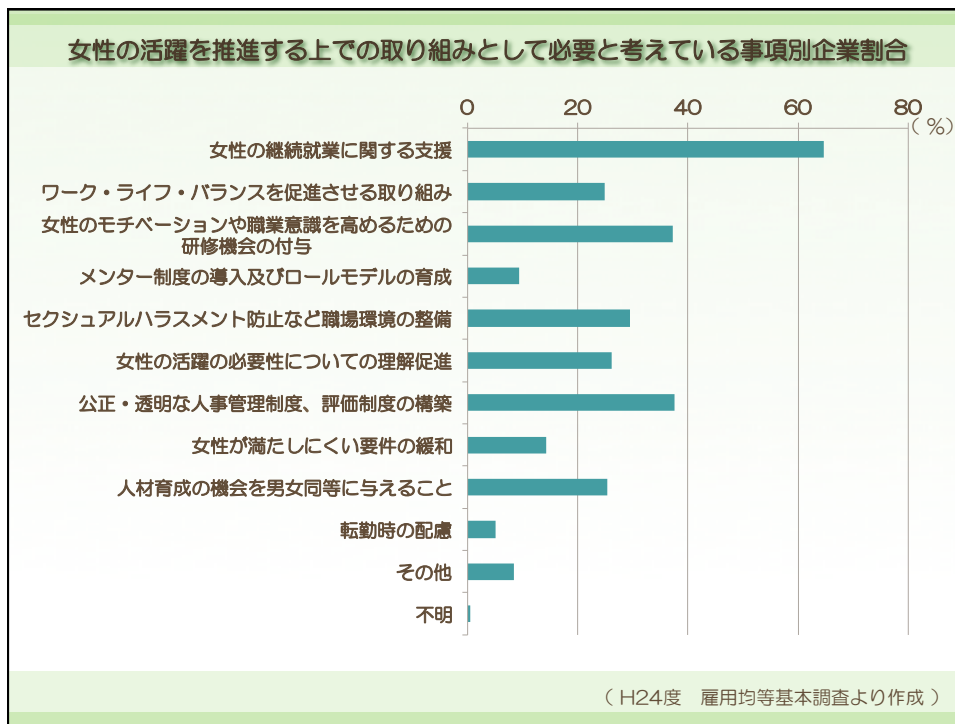


私立大学医学部同窓会合同調査 “女性医師の就労支援に関するアンケート”

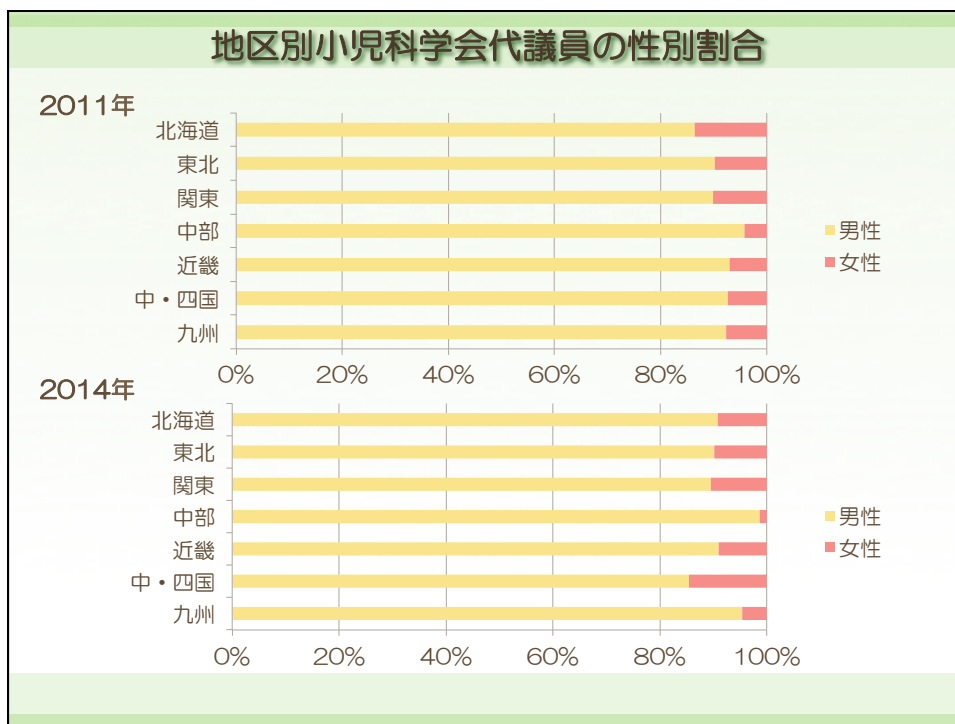
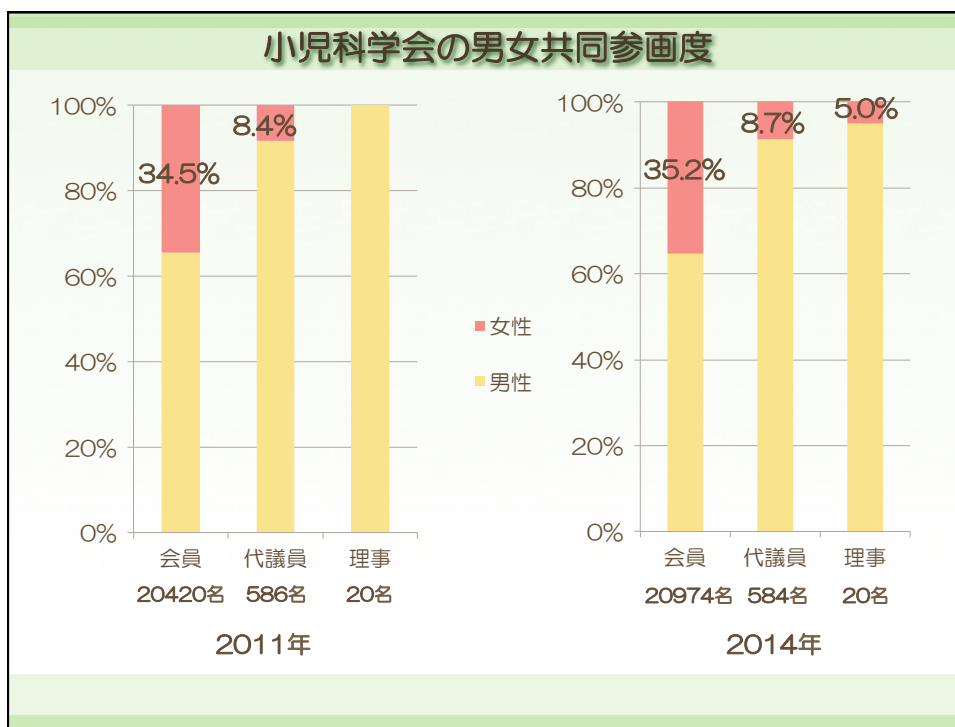
以下の立場の人から性別に関して不快、あるいは不利益を得る機会がありましたか？
1：「全くない」から5：「非常にあった」

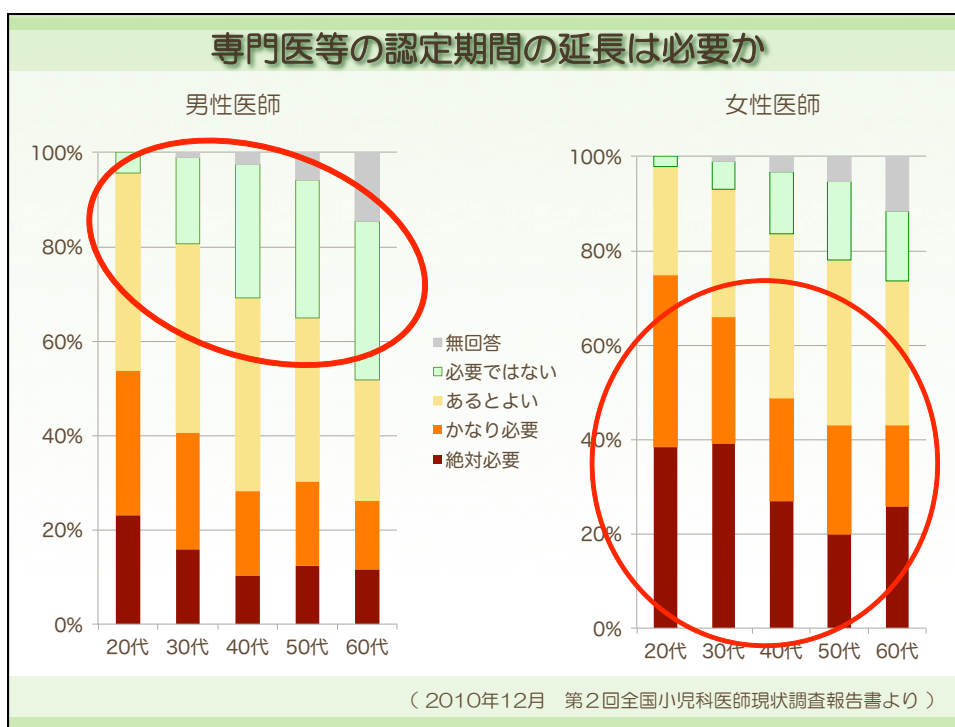
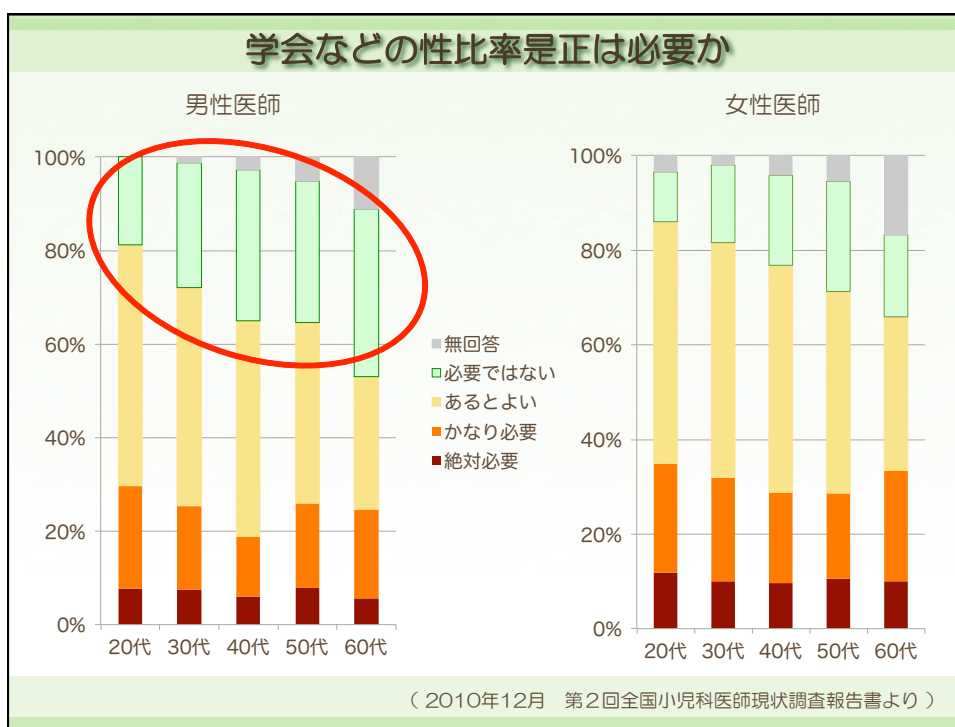






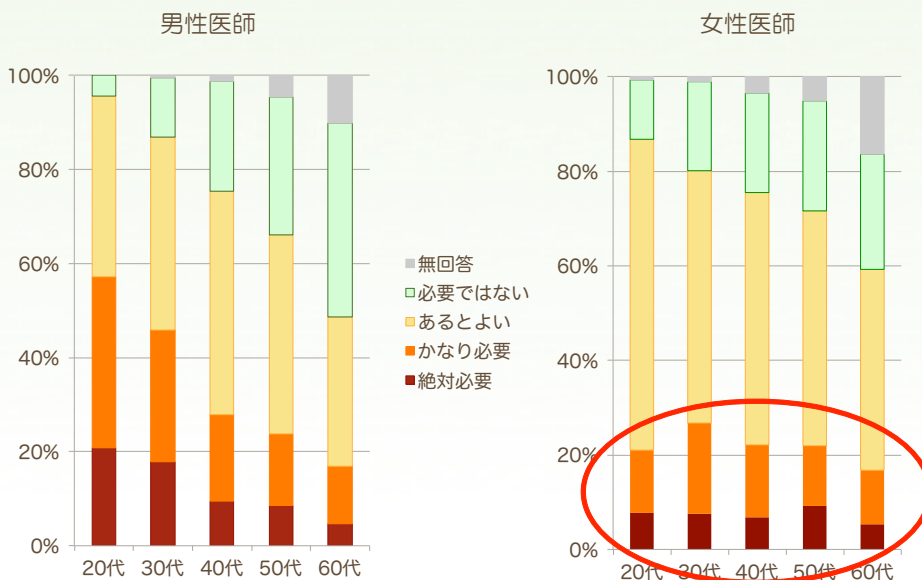
小児科学会における 男女共同参画度





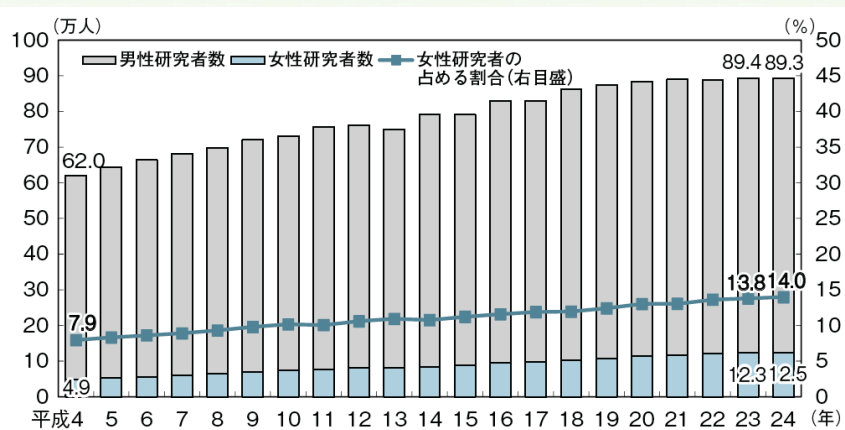
女性医師自身の意識の問題

自分の仕事が充実するために留学・研究の機会は必要か



(2010年12月 第2回全国小児科医師現状調査報告書より)

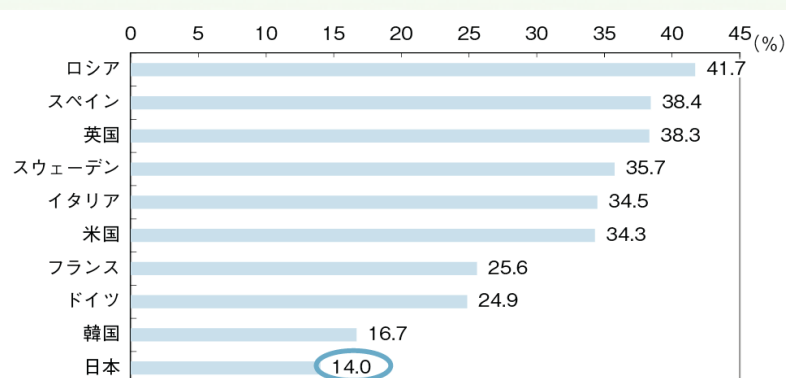
女性研究者数及び研究者に占める女性割合の推移



- (備考) 1. 総務省「科学技術研究調査報告」より作成。
 2. 各年3月31日現在。
 3. 太字の値は、研究者に占める女性の割合。

内閣府「共同参画」2013.12月号 より)

諸外国の研究者に占める女性割合



- (備考) 1. EU諸国等の値は、EU「Eurostat」より作成。推定値、暫定値を含む。
 2. 日本の数値は、総務省「平成22年科学技術研究調査報告」に基づく(2010(平成22)年3月31日現在)。
 3. 米国の数値は、国立科学財団(NSF)の「Science and Engineering Indicators 2006」に基づく。

内閣府「共同参画」2013.12月号 より)

まとめ

- ◆ 女性医師の離職防止、復職支援のみならず、より専門性を高め、高い役職や収入を得られるようなキャリア支援が必要である
- ◆ 女性医師自身が若いときから自分のキャリアデザインを意識し、積極的に前に踏み出すことが最も重要
- ◆ 重要な役職につく女性を増やすために、個々の病院、大学、学会などの組織における意識や制度改革が望まれる